

接尾辞「上（じょう）」を後要素とする語の機能 —機能の移行と移行の条件について— 張希西

本稿は接尾辞「上（じょう）」を後要素とする語「一上」を取りあげ、それが文においてあるいは文を越えてどのように振る舞うか、またなぜ接続表現のように機能するかについて記述し、検討した。

前接要素自身で完全な内容を表すことができず、修飾部分が必要となるような「一上」の用法は、語構成要素「上（じょう）」の接尾辞化による「句の包摂」現象に由来するものであると考えられる。「一上」の意味用法は前接要素である名詞の意味に影響されるが、修飾部分が直前にきて、「一上」が前件と共に後件に対する原因・理由を表す場合、接続助詞のように機能する。これに対し、修飾部分が前文または前文脈にあり、「一上」は単独で使用され、後件と共に前件に対する情報付加・補説の働きをする場合、後続内容との緊密度がより高く、接続詞のように機能する。このように、「一上」は前件を受け、後件を継いで、接続表現のように機能する。特に、接続詞のように機能する「一上」は文を越えるのみならず、談話機能をもつ場合もあり、これについては、今後の課題とする。